

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05691	研究期間	令和2(2020)年度 ～令和6(2024)年度
研究課題名	脂質代謝酵素PLA <sub>2</sub> ファミリーを基軸とした脂質による生命応答制御の統一的理解	研究代表者 (所属・職) (令和4年3月現在)	村上 誠 (東京大学・大学院医学系研究科 (医学部)・教授)

【令和4(2022)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>リン脂質代謝の重要な酵素の1つ、ホスホリパーゼ A<sub>2</sub>(PLA<sub>2</sub>)の網羅的遺伝子改変マウスの解析やリピドミクス解析を行う Bench to Clinic と、ヒト疾患からの解析 Clinic to Bench により、新規代謝経路や PLA<sub>2</sub> と皮膚疾患、がん、代謝・循環器疾患等との関係を明らかにする。PLA<sub>2</sub> ファミリーを基軸とした脂質による生命応答制御の統一的理解とともに、ヒト疾患治療への応用も目指すものである。</p>		
(意見等)		
<p>皮膚疾患、がん、代謝・循環器疾患等における PLA<sub>2</sub> ファミリー各々の酵素の関与や機能をそれぞれ見だし、着実に論文化・特許化を行っている。また、疾患治療に向けて臨床現場の研究者とも多くの共同研究を推進し、sPLA<sub>2</sub>-X が B リンパ腫のエクソソームに作用し産生するリゾリン脂質が B リンパ腫の増悪化に関与することを見いだすなど優れた研究成果が得られており、今後の発展が期待できる。</p> <p>一方で、PLA<sub>2</sub> 遺伝子改変マウスの解析により表現型における責任脂質の同定は進んではいるものの、実際の疾患との関連性はまだ不明瞭である。実際の疾患に sPLA<sub>2</sub> がどの程度関与しているのか、臨床データを基にした Clinic to Bench の研究の推進を期待したい。</p>		